

〈編集後記〉

「相愛国文」も、本号で十五号を迎えた。来し方、そして現況を慮るに、書誌学、文献学を根幹とした、いわゆる「国文学」の本来的にして、正統的な「伝統」の継承を想う。自画自賛して言えば、それは、相愛女子短期大学日本語日本文学科の、不易流行のアカデミズムのスタイルであるだろう。今回は、学科の教員と研究会のみの執筆という、シンブルな号となった。掲載が断続すると、なにかの会合などの席で、「続きは」と聞かれることがあると思う。それだけ「相愛国文」も市民権を獲たのかと、嬉しく思うことがある。なお、二〇〇一年度を以て、日本語日本文学科は募集停止となるが、「相愛国文」は、外形は変われども、存続を期したいと思う。

(鳥井)

〈執筆者一覽〉

草川 昇 本学日本語日本文学科教授
橋本 雅之 本学日本語日本文学科教授
鳥井 正晴 本学日本語日本文学科教授
俊頼髓脳研究会

相愛国文 第十五号

平成十四年三月二五日 印刷

平成十四年三月三十日 発行

編集・発行 相愛女子短期大学日本語日本文学研究室

〒559 0033 大阪市住之江区南港中四―四―一

Tel 〇六一六六一二―五九〇〇(代)

印刷所 和泉書院

〒543 0002 大阪市天王寺区上汐五―三―八

Tel 〇六一六七七一―一四六七